お知らせ

INFORMATION

No.2026-20
2026 年 11 月
病体生理研究所

検査受託中止および新規受託項目について

拝啓　時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
　平素は当研究所をご利用いただきまして誠に有り難うございます。
　この度、下記検査項目について検査受託中止および新規受託の御案内をいたします。
何卒、ご了解賜りますようお願い申し上げます。

敬具

記

【新規受託項目】

◆便中カルプロテクチン〔38386〕...検査実施施設 S

※項目情報裏面参照

《受託開始日》：2026 年　12 月　4 日（金）受付分より

【中止項目】

◆便中カルプロテクチン〔16815〕...検査案内 P58　検査実施施設 S

※検査方法・基準値等変更のため現項目コードを中止いたします。

《最終受付日》：2026 年　12 月　3 日（木）受付分まで

一般財団法人東京保健会　病体生理研究所
〒173-0032 東京都板橋区大谷口上町26-2　電話 03-3956-4101（代表）

【新規項目情報】

検査項目	変更箇所	新	現
便中カルプロテクチン	コード	38386	16815
	容器		
	保存方法	冷蔵（7 日）	絶凍（28 日）
	所要日数	3～6 日	4～9 日
	検査方法	金コロイド凝集法	FEIA 法
	基準値	下記表参照（μg/g）	50.0 以下 （mg/kg）
	報告範囲	40 未満、40～239900、240000 以上 （μg/g）	
	備考	※凍結保存は避けてください。 ※必ず専用採便容器に採取してご提出ください。 ※水様便の場合は、専用採便容器のスティックを抜いた後、スティック先端の保存液をよくふき取ってから採便してください。便を採る量が少なくなる可能性があるため、実際の値より低値となる場合があります。	

■炎症性腸疾患における診断補助および病態把握の補助に有用な検査です■

カルプロテクチンは、好中球の細胞質に豊富に含まれるカルシウム結合蛋白であり、炎症に伴い腸管に浸潤した好中球から放出され、便中に排出されることから、腸管炎症の程度を反映するバイオマーカーとして知られています。

便中カルプロテクチン濃度は、組織学的評価および内視鏡的評価と相関することが報告されており、簡便かつ患者負担の少ない検査として、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎およびクローン病）における診断補助および病態把握の補助に有用です。

便中カルプロテクチン〔金コロイド凝集法〕基準値・カットオフ値（単位：μg/g）

基準値		80 以下
潰瘍性大腸炎の病態把握のカットオフ値	内視鏡的寛解を Mayo 内視鏡所見サブスコア（MES）0 とした場合	142 未満
	内視鏡的寛解を Mayo 内視鏡所見サブスコア（MES）0,1 とした場合	307 未満
クローン病の病態把握のカットオフ値		100 未満

参考文献；Okuyama Y, et al:Clin Chim Acta 456:1~6, 2016.(検査方法参考文献)
福本裕子,他：医学と薬学 79（4）：575～584，2022.（臨床的意義参考文献）

以上